

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

通信販売
いたします

地図の専門店

- 地形図、空中写真、海図、地質図の販売
- 特注地図、地図データベースの製作販売

国土交通省国土地理院特定販売店
株式会社 **アルプス** 出版社
名古屋市中区東横二丁目21-11 (CBC筋向)
電話 (052) 931-1005 (代) FAX (052) 932-1312
<http://www.alpspublishing.co.jp/>



Nobuo Murakami



元気のでてくることばたち

135

村上信夫

(アナウンサー)

公家さんといった風情なのだが、全く門外漢の世界から、格式高い世界に飛び込んだのだ。

冷泉家の長女・貴実子さんに見初められて結婚し、婿養子として入ったのだ。為人さんの言葉を

け、ついに結婚した。1984年のことだ。あまりの環境変化に体がついていけず、結婚後初めての正月は、京大病院に入院して、大手術をするはめになった。一過性虚血発作。左右の頸動脈が細くなり、バイパス手術をした。一命は取り留めたものの、友人からは、田舎者が雅な公家の家に入り、「水が合わなかった」と皮肉られた。妻にも

■村上信夫プロフィール

NHK エグゼクティブアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、1977年、NHK 入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
現在は、『ラジオビタミン』担当。(ラジオ第一 8:30~11:50)
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
教育や育児に関する問題に関心をもち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち!』(近代文芸社)
『おやじの腕まくり』(JULA出版局)『いのちの対話(共著)』(集英社)『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

なっている。

冷泉家に婿入りした当初は、戸惑いや後悔の念が拭えなかった。そんな為人さんを変えた、ある出来事があった。結婚から9年目、49歳の時のことだ。

一人、御文庫に入り、初めて、藤原俊成自筆の歌論集『古来風躰抄』を見た。すると、突然、身震いがして、髪の毛が逆立つほどの衝撃を受けた。息が止まった。俊成84歳の書を見てただただ「美しい！」と感じた。凛と力強く、品格があり、近寄りたかつた。

並び、いろいろな供物が供えてあった。しかし、中に一皿だけ、空のものがある。「あの皿は、何？」と為人さんに聞くと、「私にも分らない」という答えが返ってきた。「私も、始めは、何故だと思った。空なのに置かれているのには深いわけがあるのではないかと考えた。理屈でものを理解しようとしていた。妻に聞いたら、ただ一言、昔からしてます」。いちいち疑問を差し挟んでいては、様式や文化を伝えることは出来ない。

型の文化、口伝文化とは、そういうものかもしれない。そりあえず型を伝え、あとは推し量ればよいのだと思う。現代では希薄になりつつあるが、察する、推し量るというのも日本文化の一つだ。

人生は、有限で一度きり。覚悟せよ

冷泉家二十五代当主

冷泉為 人さん

伝統を受け継ぐ家
正月らしさが年々、失われていく。風揚げも羽根突きも見かけなくなった。おせちはコンビニで調達する時代だ。お屠蘇を口に含み、年頭所感を述べ合う光景は、過去のものとなってしまっただろうか。年中行事は、日本人の感性を育んできた。そんな古式ゆかしい行事を、頑なに守り伝えていく家がある。

京都の冷泉家は、『百人一首』で知られる藤原定家を祖先に持つ「和歌の家」で、800年の歴史がある。京都市上京区にある冷泉家住宅は、現存する最古の公家住宅として、重要文化財に指定されている。

冷泉家には、様々な有形文化財と無形の文化財がある。『有形』とは、藤原俊成や定家の古文書など、その数2万とも5万とも言われる。このうち国宝が5件、重要文化財が47件ある。『無形』とは、数多くの儀式や年中行事。行事の度に、平安時代さながらの装束で、行事をこなしていく。

40にして人生大転換

京都・冷泉家二十五代当主の冷泉為人さんには、文化財の保存維持、公開、研究を進めるといふ課せられた役割がある。お顔も身体も、おらかな雰囲気、いかにもお

借りれば「からめとられたような、これまでも、冷泉家は、度々、養子を入れて代を継ぐことがあったが、私のように、いわば『平民』が入ったのは初めてのこと。晴天の霹靂(へきれき)の出来事」。

兵庫県稲美町の出身。地方の田舎者。実家は青果店。結婚してからも、なかなか馴染めず、幾度も逃げ出そうと思ったが、友人たちに「やっぱり」と笑われるのがよくやしくて、頑張った。

友人の紹介で、冷泉家のお姫様と食事をした。この「語り草」に、軽い思いで会った。不釣合いだと思っていた。だが、そのお姫様から幾度も誘いを受け、「詰め将棋のようにじわじわ」と詰め寄せられ、陥落した。長男で跡継ぎ、自分の家のこともあり、両親の反対もあった。しかし、母が、「日本の文化を守りに行きなさい」と言ってくれた。最初の出会いから5年間悩み続

契約違反と言われ、以後、頭が上がりなくなつた。

50を前に戸惑いが消えた

冷泉家では、藤原俊成と定家は「神様」。歌聖と呼ばれる定家の古典籍が収められた冷泉家の蔵は、「御文庫」と呼ばれ、神のいる所といわれてきた。誰彼と入れない。原則として、当主しか入れない。当主は、毎朝、出かける時にお参りするの慣わしに

文化を伝える心構え

冷泉家には、想像を絶するほどの年中行事がある。正月、歌会始、節分、桃の節句、端午の節句、小倉山会(定家の命日)、更衣七夕(乞巧奠)、黄門影供(俊成の命日)、秋山会…。正月の行事は、12月13日に準備を始めるという「事始」がある。行事をこなしていくと、一年が過ぎていく。

俳画/イネ・セイミ

節句を祭るものだ。古式に則り、祭壇の飾り付けや儀式の進行が行われる。男女が向かい合って和歌を詠みあう。和歌は、もともと、携帯メールのやり取りのように、気持ちを取り取りするものだった。

『乞巧奠』のしつらえを見ると、皿が9つ

フルート奏者
イネ・セイミ
いとおしむように奏でる音色 貴方に幸せを届けます

コンサート依頼はこちらへ
☎0563(32)0583 (セイミオフィス)

フルート奏者として活躍中。俳画家。
絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋
とき 月二回 第二・第三金曜日
午後一時~三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三五)〇四七〇

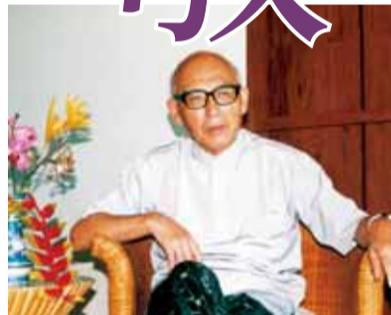
村上信夫
ことばのビタミン

好評発売中

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島行ったり来たり』(25)



《伝統的な

バリの村に住む》⑫

——鬱病をも癒した、

田舎の生活環境⑦——

《「ゴトン・ロヨンとは」》

私が、池を掘ってもらった村人の名前と謝礼のほどを、管理人に当然のこととして尋ねたところ、珍しく管理人が声を荒げて「テイダ、アパアパ、ゴトン・ロヨン、ゴトン・ロヨン……。」と叫ぶように言った。

私は一瞬、その語気に呆然とさせられた。しばらくして、私の活字上の「ゴトン・ロヨン」「相互扶助」という、日本語訳の「理解の軽さ」に気づかされた。

「自治農村の生活様式から発生した風習は、個人と社会の関係を規制したものである。最も親しい結びつきである夫婦や親子、公民と社会との結びつきは伝統的

習慣によって律せられた。この年来の習慣が、現在でもインドネ

シア人の生活を律している。……(少し、私なりに、この文章を読

み砕いてみると)。「自治農村の生活様式」とは、バリの人びとが古来営んできた

「自給自足的な協同体制のもとで暮らしてきた生活の仕方」のこと。

「風習」とは、古くから伝わっている生活・行事などの習慣——。

「習慣」とは、長い間くり返し行われて、自然に決まりのようになつた事柄()。

冊子の説明は、次のように続いている。

「習慣や伝統の基本理念」の一つとしてあげられるのは、村の重要な行事(田植え、収穫、結婚、棟上げ)を行う際の「ゴトン・ロヨン」(即ち「相互扶



助」の概念である。(中略)

習慣と伝統のもう一つの基本理念として「ムシヤワラ」(即ち「和合の精神」を上げることができると)。

《バリの村人の

プライド・自尊心の素》

影響を与えるものとして宗教があげられる。日常の仕事や重要な儀式において、宗教的性格をもった古来の風習が、次の古代へと受けつがれてきているのである」と。

あらためて読み直してみても、「ゴトン・ロヨン」は、単なる伝統の歴史的

重みのみならず、今日のバリの村人の日常生活にも習慣化し、活き活き生きている。わが家の管理人も含めて、バリの村人の「プライドや自尊心の素」になつていくようにも、私には見えた。

したがって、「自発的相互扶助」(助け合い・支え合いと呼ぶのが、この村の、バリ島の「ゴトン・ロヨン」の実状にふさわしい呼び名のように思われた。

その気になつて助け合うものだから原則として、報酬はない。結局、お互いにこうしたやりとりをしている間に、長期的にみれば、お互いの損得勘定が、ほぼ均一になることを、お互いに「無言の了解」にしているのだろう。

それとも知らずに、「池づくりのゴトン・ロヨン」を、謝金という「お金」で、日本流に清算しようとしたのだから、(やゝ大げさに言えば)管理人や村人の「プライド・自尊心を傷つけるところ」だったのだろう。

常日頃、温和で大声一つあげたことのない世話好きな管理人が、語気を強めたのも無理はない——。改めてもう一度深く、ゴトン・ロヨンの伝統を、日常の生活習慣として生きる「バリの島民の人柄と生き方」を学ぶことができた。

《「ゴトン・ロヨンに溢れた

バリの田舎の生活》

私が「ゴトン・ロヨン」という言葉とその意味を知つたのは、この田舎に家を建てた年(一九九八年)。以前より何かとバリ島について、御教示頂いていた、日本でもバリ島でも同じ県内に住居をもつ、バリ島の博物学者「Kさん」に頂いた前述の小冊子誌上。

バリの村人の肉声で、生活会話としてこの言葉を聞いたのは、池を庭に掘って頂いた折の、先述の家の管理人とのやりとり。ここで私はバリの村人の生きた生活信条としての、「ゴトン・ロヨン」の深意を、否応無しに理解させられた。

この視点で、私の断片的な滞在生活経験を思い返してみると、この田舎の生活には、「ゴトン・ロヨン」が溢れていることに驚かされる。つれづれなるまゝに書き綴つてみる——。

滞在当初、90年代末より今世紀初頭にかけては、水道や電気は通つていたものの、停電・断水は日常的。その都度、管理人が説明に来る。その内容は、「上のバンジャル(部落)で、お祝いごとか葬儀などのウバチャラ(儀式)があつて、そちらに多くの水なり電気が必要だから、こちらは断水・停電——。」という話。この村では、水は上の湧水の水源から細いパイプで各戸配水。足りない時は村人は各々近くの湧水か、谷川の清水を使っている。(生水は飲まない)電気

は下の都会より細い電線で送られてくる。電柱にはトランスもない。わが家は生活防衛上、都会でロウソク、燈油・アケアのタンクを仕入れて凌ぐ——。水も電気も村中でゴトン・ロヨン。

わが家の竣工式も庭づくり、池づくりは、身かなゴトン・ロヨン。鬱病になりかけたチュルクの金銀細工店に勤める村の娘さん(17・18号参照)の「救出」には、車の運転の出来るわが家の管理人も親身になつてかゝつたという。労力や金銭など、目に見えるゴトン・ロヨンだけではない。彼女をわが家の日本語「インドネシア語の勉強会に誘つた管理人の村人への「気づかい」の対応も立派なゴトン・ロヨン。

なんとといっても、その庄巻は、日頃、助け合い支え合い、幸せに暮らしている感謝を込めた村の創始者の祭りの集いと、そのお供物の賑々しさで美しさだろう。



晴れのち仕事 ときどき食べ歩き

柴 信次／藤間勘萃



お正月



1月7日：堀田米作(関西二期会事務局)のプロデュースのもと、バツハやヘンデルなどのバロックものと、ぼくの作・編曲による「和もの」を演奏するため立ち上げられたユニット「プラノ・太田尚見とバロック・リュート」ぼくの旗揚げコンサート。

1月8日：年末年始のぼくが退屈しないようにと編集者がどつきり用意してくれた編曲の締め切り(全5曲)。

1月9日～10日：毎年恒例『花ふじ会』舞初めのリハーサルと、その本番。



写真提供：花ふじ会

1月12日：ヴィオラの吉田浩司とお邪魔した『茶道表千家』の初釜(演奏と踊り)。

作・編曲、バロック・リュート演奏(ピアノ)での演奏にも年間50回近く出向く、そして踊り……といった訳の分からない品々をショーウィンドウに並べて、亭主のぼくひとり細々と営む『柴音楽商店』の平成21年は、こんなふうな幕が上がった。

ハイホーッハイホーッ

しっこーとがっ好つきー♪

わが愛しの♡ みっしえる



芸事＝お仕事になつていくぼくにとって、気晴らしに「大好きな音楽をCDで聴く」……なんてことは滅多にない。若い頃、舞台のギヤランティをせつせと貯めては少しずつ買いつけ、30年も聴き込んではお気に入りのステレオ・セットも、アトリエの片隅で申しわけ無さそうに肩をすくめている有り様だ。そんな中で、高校1年の頃から組んでいるアコースティック・ロック・バンド『みっしえる』だけは別格だ。

写真は、1980年頃の『みっしえる』。真ん中が加藤(文末のプロフィールを参照して下さい)、左から二人目がぼく。



メンバーがみな50代になり、それぞれが忙しくしている『みっしえる』……それでもぼくはこの掛け替えのない青春の残像のために、日々の作・編曲の忙殺の合間を縫っては、当分は歌い弾かれる見込みのないこんな歌をしたためてしまふのだ。

ぼくたちは いつでも 鬼ごっこ♪
取つておきの「アイラブユー」
すり抜けて♪

ぼくたちは いつでも かくれんぼ♪
そのくせ ふたりは 食いしんぼ♪

あした晴れるかな？
あした晴れたらね♪
となりの町まで 手をつないで♪
食べ歩きに行こう♪

ぼくたちは いつでも ならめっこ♪
遅ればせの「タイム・ソーリー」
言えなくて♪

ぼくたちは いつでも おこりんぼ♪
そのくせ ふたりは 食いしんぼ♪
あした晴れるかな？
あした晴れたらね♪

となりの町まで 手をつないで♪
食べ歩きに行こう♪

きみにあやまることばかり
ぼくは抱える♪

手紙を書こう 電話をしよう
駅で待ち伏せしよう♪

きみがいなければ始まらない
分かってるのに♪

ぼくの言葉は きみを曇らせ
雨を降らせる♪

『鬼ごっこ、かくれんぼ』より
この歌はもういちど一番の歌詞を歌ったあと、なんだか分からないけど、

早起きをしよう♪
で終わる。

「どうしてバンドをやると思ったの？」と訊かれたら、ぼくたちは口を揃えて「女の

春



子にモチたかつたからっ！」と答えるだろう。出版される楽譜の編曲をしたり、時には指揮をしたりして付かず離れずお手伝いしている「ライリッシュ・オカリナ連盟」が、その15周年の節目を祝い、『ギネス世界記録』に挑んだ。

4月10日：前夜祭、北は北海道、南は沖縄から意気揚々と名古屋に集結した指揮者、愛好家(会員)のみなさんを、ぼくは踊りでもおもてなしした。司会者としてお付き合い下さった女優の大場久美子さん(「コメットさん」は今でも可愛らしかった)がぼくの踊りをうっとり眺める写真もあったのだが、真意のほどは分からないので……



写真提供：ライリスト社

4月11日：オアシス21(名古屋・栄)。全国からオカリナを手に集結した総勢650名が、西谷谷「音楽顧問の編曲・指揮のもと『世界の名歌メドレー』を響かせ、『ギネス世界記録』の栄冠を手にした。



写真提供：ライリスト社

一息つく間もなくその夜、指導者たちによる『ライリスト・コンサート』が愛知県芸術劇場大ホールにて催された。ぼくも、太田尚見(前出)を伴ってゲストとして舞台上に立ち(余計なお世話だった?)、バツハとヘンデルを披露させていただいた。



写真提供：ライリスト社

4月12日：前日につづき愛知県芸術劇場大ホールにて、愛好家(会員)による「オカリナの集い」全国大会。写真は、西谷谷「音楽顧問の編曲・指揮のもと全国の指導者が一堂に会したオーブニング。曲目は、ベートーベン『交響曲第7番より』。



写真提供：ライリスト社

ハイホーッハイホーッ
しっこーとがっ好つきー♪

ちよつと一息



何の前触れも無く突然訪れた『柴音楽商店』の休みの日。連れあいとぼくはこの機とばかりに、地下鉄に乗って本山(名古屋千種区)へと出掛けた。

かつて名古屋の原宿(青山?)という触れ込みで、洒落た洋服屋さん、雑貨屋さん、キーキ屋さんに彩られていたこの四谷通も、バブル景気が去り、さらにはこのところの世間の懐具合も手伝って、すっかり褪せている。それでも、名古屋駅周辺や栄といった繁華街とはまた別の「ふいっ」とお高く止まった山の手(アップ・タウン)の気位がこの街にはある。なだらかに長く続く坂道を上り下りしていくつかのお店を覗き、『西原珈琲店』で

いつぶくし、また、坂道を上り下りしているうち日が暮れかかった。ぼくたちは目配せを



し、頷き、互いのお腹に晩ご飯どきが到来したことを確認すると(大袈裟だなあ)、一目散に階段を駆け下り、地下鉄に乗った。

『丸の内』駅で下りる。オフィス街を露地へと入り、5分ほど歩いて堀川に架かった五条橋を渡れば、そこは、つい今しがたまでの本山とは打って変つての下町(ダウンタウン)：懐かしい昭和の匂いがアーケードに染み込んだ円頓寺商店街だ。

ぺこぺこのお腹を抱えたぼくたちは、まるで空気清浄機にすうすうと吸い込まれていくタバコの煙みたいに、橋のたもとにちよこなんと店を構える洋食屋「勝利亭」の暖簾をくぐった。「勝利亭」の創業は、屋号の通りわが国が戦争に勝つた年だ。太平洋戦争……まさか勝つたのは日露戦争です(びつくり仰天!)：名古屋洋食こと始め。

お給仕は、この店のおばあちゃんが一人でしている。ぼくたちは、お目当てのビール・カツレツが出来上がるのをビールを飲みながら待った。食いしんぼうな連れあいは、ライスを断り、代わりにハヤシライスを欲張った(食いなはれ、食いなはれ、たーんと食いなはれ)。呑んべえなぼくたちが何杯もお代わりするグラス・ワインを、ウエイトレスは赤ちゃんは、テーブルにどっしりおしよと置いていく度に、ちやぶちやぶつとこぼすのだった。

呆れたことに「勝利亭」を出て数十メートル歩いただけで、焼き鳥屋さんへと梯子するぼくたち。ややあって、焼き鳥と焼酎で打つ舌鼓に、ぼくの携帯電話のベルが割り込む。電話の主は加藤(再び文末のプロフィールを参照して下さい)。酔いの回り始めていたぼくは、携帯電話を連れあいにバトンタッチし、この成り行きを伺う。「高校ノ同級生Yが久シブリニ東京カラ戻ッテオリ、イマ大須デ飲ンデイルカラ合流サレタシ」……やれやれ、ぼくたちは記憶と意識とを失っていった(そ



写真提供:ライリスト社

りやあ、そうだわな。
休みの日は、いつだって、こんなふうには忙しい。
ふたりは、食いしんぼ、
あした晴れるかな？
あした晴れたらね、
となりの町まで手をつないで、
食べ歩きに行こう。

夏

ぼくがお手伝いをしているもう一つ…大正琴の『琴修会』。昨年『柴 信次／藤間勘翠の四方山ばなし』という演目を引っ提げて名古屋〜大阪〜横浜〜新潟〜岡山を講演して巡ったのに続き、今年は『柴 信次／藤間勘翠の古今東西音楽げしき』と題する講演で、名古屋(2回)〜大阪〜金沢〜横浜〜新潟〜岡山〜四国〜秋田を巡った。

その内容とは言えば、作・編曲家／演奏家／日本舞踊家を掛け持つぼくのトンボみたいな複眼に映る音楽史…6世紀末にカトリック教会の法王グレゴリウス1世が編んだ『グレゴリオ聖歌』から出発して、今日のポピュラー・ミュージックまで…それも、洋の東西を行き来しながら1時間半で辿り着こうというもの(ふう)。その目紛しさに酔い気分になり、口の端っから泡を吹き出しながらの熱演も、終わってみれば、一番ウケたのは「ぼくはカトリックで洗礼を受けているので、正式名称は、柴 信次／藤間勘翠じゃあなく、柴 信次／藤間勘翠／ヨハネという具合になるんです…三菱東京UFJ」というギャグだった(写真は名古屋会場の様子)。



ちよこ二息



ハイホーッハイホーッ
しつこーとがっ好つきー

『柴音楽商店』に臨時休業の貼り紙をして、連れあいていそいそ向かったのは、若者たちのファッションがぎょろり詰まった「パルコ」。誕生日が近い彼女のワンピースと、ぼくの上着を新調しようという寸法だ。ここ数年、チヨイ不良おやじを気取って、革の上着を着込んで文字通り肩肘を張ってきたぼく(タイトルの写真をご覧下さい)。こらでちよつとイメーシ・チェンシ…と選んだのは、深い碧色をしたツイードの上着襟の形とシルエツトが愛らしく、おまけによおーく見ると赤色だの、黄色だの、青色をした糸玉(ネップというらしい)が織り込んである…おじいちゃんが着ていたオーバー・コートみたいな上着。



写真は筆者蔵

その足でぼくたちは、名古屋ドームで催されていた『ドームやきものワールド』へ。

大好きな日本茶で、ぼつこりするのは、アトリエに籠るぼくの束の間の寛ぎだ。お気に入りを入りの湯呑みが、使い込むうちその色合いを変え、その表面が貫入(ひび割れ)で飾られるようになるのを虫眼鏡で覗き込んだりもしている。時に、そんなぼくの期待を裏切る器たちは、(早く風合いが変わるようにと)鍋でコトコトと煮込まれる羽目になる。

「あちつ、あちつちーおおいっ何しやがんでいっーとんだ家に来ちまつたもんさなあ、こちとらあ、焼きものでいっ、煮ものじゃあねえってんだっ」などと気の毒な器たちが上手いことを言うのへ、「てやんでいっー男の手料理、ってなあ、こんなもんよっ」などとぼくも言い返すのだ。

秋



名古屋ドームのグラウンドに所狭しとひしめいた出店常滑、美濃、備前、京焼などなど…を隈無く巡り、秋の湯呑み(萩の七化けが楽しみだ)と唐津の小皿を手に提げていたぼくたちは、はたと立ち止まり、目配せをし、頷き、確認したのは、互いのお腹に到来していた晩ご飯どき(相変わらず大袈裟)。

：地下鉄に乗って『久屋大通』駅を目指した。地下鉄を下り、地上へ。冷たい雨の中を露地に入って10分ほど歩けば、この辺りは名古屋市が『歴史的町並み保存地区』に指定しているお屋敷エリア。その一角で『十の字』は町家風の佇まいで、それとなく、やつていた。

一日中歩き回り喉が渇いていたぼくが「まずはビールを2杯」とウエイトルスの女の子に告げ、「それから、えーっと…サーモンのマリネとカマンベール・チーズのフライを」と連れあいが続けた。ひとしきり「ぶあーっ」としたぼくたちは、この店の看板メニューであるビーフシチューとタン・シチュー、それから何杯かのワインへと駒を進めた。シチューの鍋の中では、お肉、じゃがいも、ニンジンに混じって、何故だかきしめん(！)が我がもの顔にしていた。

休みの日は、いつだって、こんなふうには忙しい。
ふたりは、食いしんぼ、
あした晴れるかな？
あした晴れたらね、
となりの町まで手をつないで、
食べ歩きに行こう。

11月3日：臨濟宗妙心寺派『洞海山・平安寺(岐阜県・池田町)にて催された』霜月桜の会』に出演した。濃尾平野が眼下に広がる里山の中腹にあるこの平安寺(鹿もよくちよくお参りに訪れるらしい)…寺院の書によれば、「その起りは、西暦1085年に後白河法皇が結んだ平安殿という庵」というから、なかなかの名刹だ。

「静寂が和む絃と声、寺院に響くヨーロッパの薫り」と副題の添えられたこの催しに、ソプラノの太田尚見(前出)と臨んだ。彼女は正月明けの旗揚げ以来、名古屋市天白小劇場(3月)、愛知県芸術劇場大ホール(4月)、古川美術館(5月)…と少しずつアンサンブルの親密さを増してきている。

第1部では、互いにバロック風の衣装でパッパやヘンデルを。



写真提供:堀田栄作



写真提供:堀田栄作



写真提供:堀田栄作

第2部では、がらりと和風の衣装に着替えて『ふるさと』や『赤とんぼ』など日本の童謡を。

ある日のこと、連れあいがタコがチュー♥をする時みたいに口をめぐれ上がらせているので、「ドウシテソナナ大関・琴光喜ミタイナ顔ヲシテイルノダ？」と訊くと、「コウシテ鼻ノ下ノ匂イヲ嗅イデイルノデス」と風変わ

りなことを言う。試しにぼくも真似てみると、煙草吸いのぼくの鼻の下は案の定、ヤニの匂いがした。これまで「禁煙なんて意志の弱い人がすること…だつて、一度タバコを吸うと決めたことを続けられないんだから」などと屁理屈を振りかざしていたぼくであつたが、その日から煙草を吸わなくなった。おかげでぼくの弾き歌うパッパは、高音も低音も伸びやかになり、息も長く保てるようになり、つまりは歌が上手くなった(あくまでも当社比です)。

こんなふうな一年を営んできた『柴音楽商店』。目下どころが捻り鉢巻きで取り組んでいるのは、『関西二期会』がこの3月に上演する『アメリカ舞踏会へ行く』というオペラ：管弦楽(譜面は300ページを超える！)を今回の上演に合わせてリメイクし編曲する大仕事だ。

そんなぼくに、「ドーン、才食ベナサイ」と差し出された夜食のカップ・うどんは、こんな顔をしていた。



写真は筆者蔵

時代をこえて 絃と歌が紡ぐ空間

主催：(財)名古屋文化振興事業団
日時：5月22日(土)
午後6時30分開演
場所：名古屋市西文化小劇場
料金：前売り1,800円
当日2,000円
演目：パッパが楽しみは、
元気な狩りのみ、ほか
出演：太田尚見(ソプラノ)、
崎山弥生(ヴァイオリン)、
川出三和子(チェロ)ほか
お問い合わせ：
052・523・0080
(名古屋西文化小劇場)



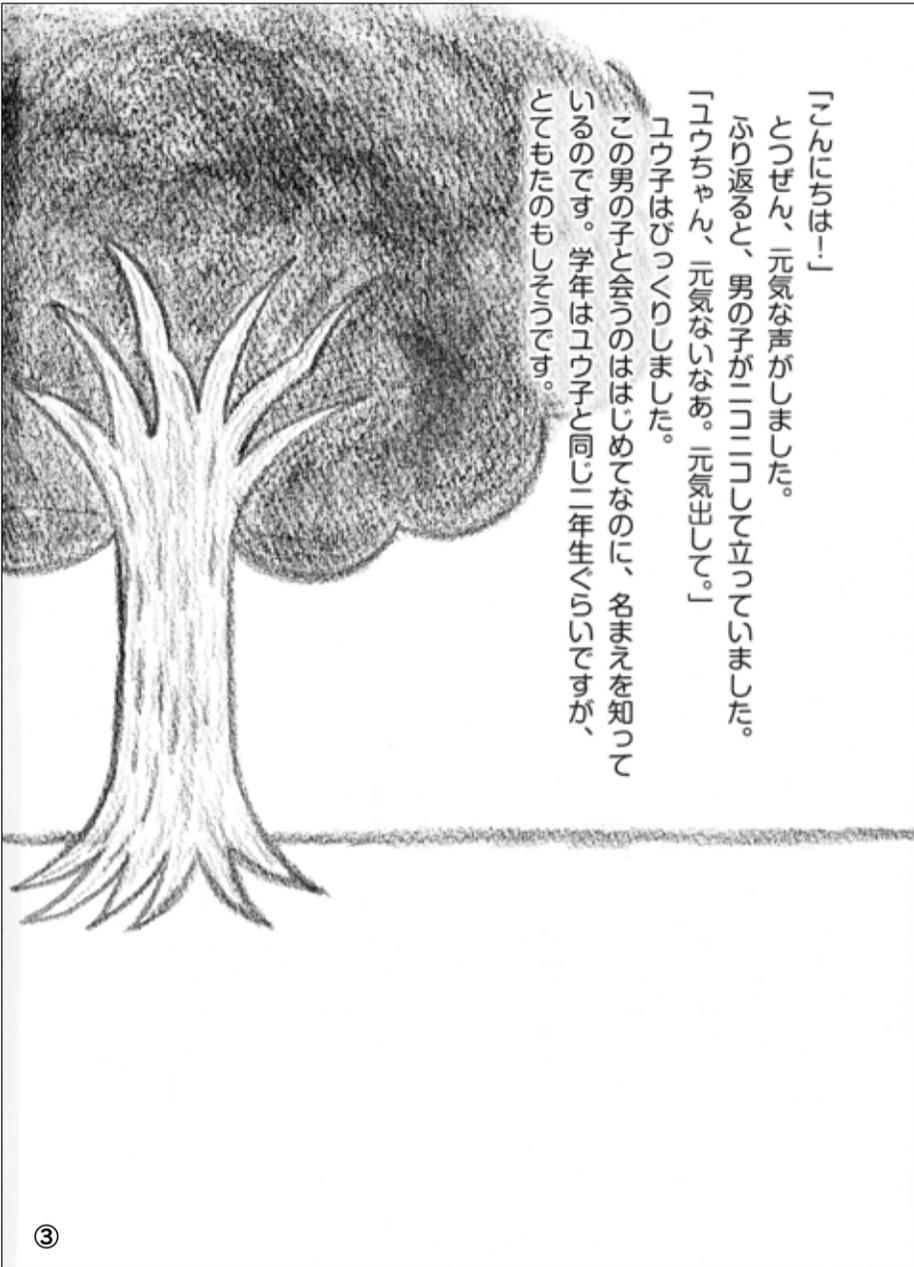
◆プロフィール
写真・加藤明久
1958年、名古屋に生まれる。
中部写真プロダクション(株)にて、「マーシャル・フォト」や行政のポスターなどを数多く手掛ける。フリーを経て、現在、東海写真スタジオ株式会社代表取締役社長。
ちなみに、ふたりは、高校の同級生。おまけに加藤の細君も同級生。

文・柴 信次(しば しんじ)／
藤間勘翠(ふじま かんすい)
1958年、名古屋に生まれる。高校在学中より舞台に立ち、名古屋音楽大学にて作曲を専攻する。
作・編曲家として出版やレコーディングに、楽士及び日本舞踊家(宗家・藤間流名執)として舞台に数多く携わる傍ら、エッセイも執筆する。
日本福祉大学講師(1984〜2003年、2008年を経て、現在、ライリッシュ・オカリナ連盟音楽顧問、琴修会(大正琴音楽顧問)。

連載絵本『ユウちゃんのふしぎな国』第二回

ユウちゃんのふしぎな国

高橋 幸子・作
大島 沙織・絵



「ユウちゃん、」
とじせん、元気な声がありました。
振り返ると、男の子がニコニコと立っていました。
「ユウちゃん、元気ないなあ。元気出よう。」
ユウ子はびっぴりしました。
この男の子と会うのははじめてなのに、名まえを知っているのです。学年はユウ子と同じ二年生らしいですが、
とてもたのしそうです。

「ねえ、どうしてわたしの名前を知ってるの？」
「どうしてって。そりゃあ、ユウちゃんのこと、すきだからわ。」
（まあ、すきだなんて。）
そんなだいたいなことを、はじめて会った子にかんたんに
言ってもではないと、ユウ子は思いました。
でも、このニコニコしている男の子を見てると、
なんだか心の中が明るくなって、うれしくなりました。
「ボク、ロン太っていうんだ。」
男の子は、うれしそうにアハハとわらいました。
「今日は、ユウちゃんをボクの住んでいるステキな国に
あんないするよ。」
ユウ子はうれしくなって、ロン太の後について野原の真ん中
をどんどん走っていきました。となりの町なのに、はじめて
見るけしきでした。
菜の花畑がヒマワリ畑になり、やがてコスモス畑にかわり
ました。



とじせん、
サクラのお山になりました。
「わあ、きれいなサクラー！」
ユウ子は、サクラにびっぴりして国を見はりました。
「ちあ。ここからボクの国なんだ。」
そう言ってお山のおくへ入って
きました。
ユウ子も、あわてて
後を追いました。

作り手と使い手を結ぶ工芸の森

見世 広場 工房
SHOP PLAZA LABO

画廊 市場
GALLERY MARKET

方円館



〒479-0003 愛知県常滑市金山字上砂原123 とこなめ焼御団地
TEL 0569-43-7101 FAX 0569-43-7104



(有)知多エッグ

**知多の新鮮たまご
発酵ケイフン**

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

電動ロクロコース始めました。親切、丁寧に指導いたします。



【施設のご案内】

まるふく

1F●やきもの展示即売
●「おとふ工房いしかわ」
とうふ、パン、ぎらすあげ等 販売

2F●110名の陶芸教室
●電動ロクロコース 絵付け 手ひねり等

セビカ

1F●やきものギャラリー セビカ
月2回 個展開催

大駐車場完備

〒479-0832 愛知県常滑市松原町6丁目66番地の1
TEL(0569)35-2209 FAX(0569)34-5745
●年中無休 ●営業時間 AM9:00~PM5:00

知多四国めぐり
関連書籍販売しています



プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷・PDF高速データ変換・
CD-ROM作成・Data Base・CG制作

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市瀬干町1番地の21 TEL (0569) 29-2525 (代) FAX (0569) 29-4500
URL <http://www.handa-cp.co.jp> E-mail main@handa-cp.co.jp

グループ会社
プリ・テック株式会社●プリテックメディア株式会社●トーヨー印刷株式会社

春よぶとりどり展

平成22年1/30(土)~2/28(日)

定休日:毎週水・木曜日、第1・第3土曜日



陶芸サロン
陶美園 ☎(0569)35-2320

〒479-0838 常滑市鯉江本町6丁目36番地

Quality Foods

イシハラフードは お客様と共に
「安心」「安全」「おいしさ」を食品を通して考えています。



確かな味、信頼の品質、地元商品の育成。
わたしたちには「こだわりの商品」がたくさんあります。

大好評の最高級梅酒

「白老梅」こだわりの梅酒展

日時/2月16日(火)~21日(日) 午前10時より午後4時
場所/常滑屋(常滑市栄町3-111) TEL0569-35-0470

知多の佐布里梅と、当社の手造り純米吟醸古酒を用いて、元禄時代の梅酒造りの技法で醸した白老梅。おかげさまで大変好評いただいています。このおいしさの秘密を公開します。また試飲もできます。

清酒 イベントの詳しいご案内
<http://www.hakurou.com>へ **入場無料**

白老 澤田酒造株式会社 常滑市古場町4丁目10番地 電話0569-35-4003



手造り陶雛大展示中

二階ギャラリーは陶雛でいっぱい。
ぜひ、ご覧ください。
3日から営業します。



花器専科
やまもと

〒479-0003 常滑市金山字上砂原105番地
とこなめ焼御団地セラモール
TEL (0569)43-7181
FAX (0569)43-7191
営業時間 AM10:00~PM5:00

楽しいバスの旅...

子供会・老人会・同年会 他
団体でのバス旅行は...



(株)名鉄知多バス旅行
☎0569-24-6651

AQUAS 電力が売れるってご存知ですか?

太陽光パネルおまかせ下さい!

●太陽光を付けた場合のシミュレーションができます。

- 現在の光熱費をお聞かせ下さい。
- 屋根の写真をお願いします。
- パネル設置イメージ写真や、経費効果シミュレーションのご提案がすぐにできます。

総合燃料商社 大和グループ 太陽光も水のこともやっぱりアクアス

大和グループ 太陽光パネル 専用ダイヤル ☎0569-48-5869

AQUAS 株式会社アクアス <http://aquas-n.com.jp/>

※制作時間は20~30分です

目指せ! 節エネ+省エネで 光熱費0円生活!

葬儀のことなら...霊柩車から香典返しまで

誠意と真心であんしんのかげはし

CSK葬祭・瑞雲殿

常滑・青海

(株)シイエスケイライフ 常滑市北条1-34
電話(0569)35-2785 フリーダイヤル 0120-33-5909

ヨーロッパアンティーク展

アール・ヌーヴォー、アール・デコを代表するエミール・ガレ、ドーム、ルネ・ラリックなどのガラス工芸品やマイセン、K.P.M.、セーブル、ウィーンなどの王立窯を中心としたヨーロッパ名窯の陶芸作品、気品溢れるアンティーク・アクセサリーなど、18世紀から20世紀にわたる西洋骨董の逸品500余点を一堂に集めて展覧即売いたします。
ぜひ、この機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2010年1月20日(水)→2月2日(火)

※最終日は17時に閉館させていただきます。

名鉄百貨店本店[本館] 10階アートギャラリー
ダイヤルイン=052-585-2841



エミール・ガレ 鮮文花瓶 (1880年代・仏) 高さ19.5cm

meitetsu 名鉄百貨店

〒450-8505 名古屋市中村区名駅1-2-1
Tel.052-585-1111
www.e-meitetsu.com

みんなが主役

応援される人になる!(7)



1. 川上徹也さん 『仕事はストーリーで動かそう』著者の場合

川上さんとは出版関係の勉強会で一緒にさせていただいている。ある日、川上さんが初めての単独著書を出すというので、出版記念セミナー&パーティを開きませんか?とオススメした。ところが、未だどれくらい売れるかわからないし、ある程度売れてから...という返事で、気乗りしない様子だった。そうしたところ、その勉強会の忘年会で、私がその話をしたところ、山田真哉さんが助け船を出してくださいました。「新入王というのはその年しか獲れないですからね!」つまり、初めての本の出版記念を1年後にやることは出来ないということである(正確に言うとうるは構わないが、間が抜けているという意味で)。

それで、川上徹也さんと山田真哉さんは大学の先輩後輩にあたる(専攻は違うが)こともあり、俄然、川上さんがやる気を出し、私は彼の出版記念セミナー&パーティをすることに。

出版記念はその忘年会の2ヶ月後に開催され、山田真哉さん、美崎栄一郎さん、小早川英一郎さん、鹿田尚樹さん等の多彩なゲストに来ていただき、大変盛り上がった。

ただ、残念なことに、川上さんが自分の話になったときに、緊張して、一本調子になってしまったことである。その調子で1時間しゃべるのを皆で聞いていたので、結構大変な時間だった。私自身も翌日にも出版記念セミナー&パーティの主催を引き受けてしまい、かなり準備不足を否めなかった。反省すべき点が多い出版記念となり、皆から改善提案の申し出が相次ぎ、二人でかなり落ち込んでしまった。私などは寝込んでしまったくらいである。

そこで、川上さんと私はリベンジを誓った。

「もう一度頑張りますよ!」そして、僕は立派に講演ができることを、そして秋田さんはホスピタリティに満ちた出版記念セミナー&パーティの主催ができることを皆に示しましょう!と川上さんは私に言った。

それから暫く経って、私は、肖像写真家のタツ・オザワさんに出版記念パーティの開催を頼まれ、盛会に終わり、大好評だった。川上徹也さんは、その後美崎栄一郎さんの出版記念セミナーにゲストとして呼ばれ、しっかりと分かりやすい口調で、無事講演を果たすことができた。

川上徹也さんが応援される理由はいくつかある。それは、

- 1 実に地味で、とつとつと話す、誠実に信頼できる
- 2 一度受けた恩は忘れない
- 3 失敗しても決してめげずにリベンジをする
- 4 淡々と努力をする
- 5 背中が寂しそうで、ついつい助けたくなる
- 6 ここで言うべきだという正しいことがあれば勇気を持って皆に伝えるなどである。

川上徹也さんは自分自身を応援する会を自ら立ち上げ、また新刊が出る度に、持ちやすいサイズのチラシを作り、大量に配ったり、送付したりするのも、何だか応援せざるを得ない(笑)状況を

作り出している。

川上徹也さんのイメージはひたむきで、まじめである。彼がこれからも正直で淡々と努力するのを、陰ながらサポートしていきたいと思っている。

2. 中村 実さん (東洋経済新報社・書籍担当編集者)の場合

中村さんと初めてお会いしたのは、21名の先生方の取材インタビュー集「知の現場」の打ち合わせの際である。上司(編集部長)の方が一緒だったせいか、中村さん(副部長)は明るくさわやかな普通の青年という印象を受けた。

この本「知の現場」を作るためにプロジェクトチームが結成され、私はプロジェクトのリーダーを務めることになった。プロジェクトの目的は本作りを通して、若手メンバーを育てながら、21名の先生方の取材を日本全国において(お一人の先生のみ海外)敢行することにあつた。

「知の現場」は2009年3月16日から取材が始まり、8月25日に全ての取材が終了、その合間にも、テロプ起こしや、原稿作成、修正等の編集作業が21件分同時に続けられ、最終的に完全データの形で入稿(印刷所に原稿を持ち込むこと)となったのは、12月2日で、その間、大変長く、楽しくも苦しい日々が続くことになる。

さて、私たちはその本「知の現場」の担当編集者のことを「中村様」と仲間うちで呼んでいた。中村さん、だと、他の中村さんと区別が付かないのだが、「中村様」と呼ぶことで、私たちの間では一人しかいない、特定の中村さん「中村実様」を指すことになる。なぜ、私たちが中村様と敬称を付けて呼んでいたのかは次のような経緯によるものだった。

最初のほうの取材である、久恒啓一先生、北康利先生の取材には、中村さんは同行せず、3回目の取材から編集者として取材に同行することになった。私たちは、取材慣れしていないせいか、大学のサークルのノリで楽しみなが取材をしてしまった。そのために、終了

してから、中村さんからこんなメールが来たのである。冒頭に「本日は取材お疲れ様でした!」

この冒頭の書き出しを思い出す度、苦しい出が蘇るのだが、このメールは次のようなものだった。取材に関するいろいろな注意点、改善点が細かく挙げると10ほど箇条書きになっていた。最後に「取材が本職でないとしても、時間を空けて取材に応じてくださる先生方のことを(少しは)お考えいただきたい。緊張感がない取材の感が否めない、などと散々お叱りを受けてしまった。」

この中村さんからのメールでのお叱りのあと、私たちは、大反省をし、中村さんからの注意点、改善点を皆で共有し、気合いを入れて、今後の取材に臨むことにした。

それからというもの、中村さんが取材に同行されるときは、プロジェクトメンバーが一緒に緊張し、生きた心地がしないという状態であつた。しかしながら、いろいろな取材に関する心構えを教えていただいたお陰で、約一時間の取材はピリリと引き締まったものとなり、とても中身の濃い取材内容となつていく。

取材はその後、中村さんからお叱りを受けることもなく、ハードなスケジュールをこなしながら、全部の取材が完了した。

取材がずつと続いていたので、原稿がなかなか仕上がらなかったのだが、取材が一旦終了すると、今度はかなり激しい頻度で原稿のやりとりが進むことになった。

そこから中村実さんの原稿添削指導が本格的に始まった。

それはかなり手厳しいもので、全体の辛口コメントの他に、「このようにとは、どのよう?この論文とはどの論文?意味不明です。この段落はわかりにくいので整理してください。ここは書き込みが足りません。ここは全くとは全く同じ内容ではないですか?」など。

原稿に手書きで赤字がびっしり書き込まれ、それがスキャン(読み取り)されたPDF(データ形式の一つ)になったものがメール添付で送られてくる。私は中村さんから受け取ったどんな

辛口コメントであっても、それを原稿担当者そのまま送った。皆そのときは、かなり落ち込んでしまうのだが、頑張つて何度も繰り返し提出してくる。それでも、中村実さんのダメ出しが続く。私たちは長く真つ暗なトンネルの中を、いつ抜けるとも分からない状態にいた。

そうこうしている内に、少しずつ中村さんから「OKです」というコメントのついた原稿が返ってくるようになった。二週間に一度打ち合わせに来るプロジェクトメンバーの表情に明るさが戻ってきた。

それから、取材先の先生方21名に対し、ワード原稿で修正箇所の確認を取り、初校ゲラ(一度目の校正刷り)、再校ゲラ(二度目の校正刷り)での修正を経て、ようやく、制作部の校了チェックを受け、入稿となった。

その間、さまざまなドラマがあり、トラブルも発生し、その度に中村さんに助けていただいた。

初校ゲラの確認のため、ある先生に原稿をお送りしたところ、ご自分が肝心要(かんじんかなめ)と思われているところのインタビュー部分が抜けていると言われ、全面書き直しを要求された。そこでは、その部分を入れてしまおうので、とても困ってしまった。中村さんにもその部分は、本文には入れられないですね!と言われてしまう。そこで、中村さんに泣きついて、「その部分だけ少しページ数を増やし最後に載せていただけませんか?」とお願いした。「半端なページ数だと増やせないけれど、その追加内容で、2ページ書けますか?」と聞かれた。私は何とかならないかと思いきや、また取材原稿が残っているのだから、それで頑張つて2ページにしよつと考えると、「やります!」と答えた。2ページ分増やしていただいた。その先生に追加で書いた原稿をお送りしたら、大幅に修正されたものの、これでOKということになり、事なきを得た。

このときに、中村さんが即時に臨機応変に対応してくださらなかったら、おそらく2009年内の刊行は無理だったことだろう。先生と中村さん、それに私とで携帯電話を使い、何度もや

りとりをした。その甲斐あって、きちんとコミュニケーションが取れ、その先生にもご満足いただけたようである。この一件があつて、中村さんのことを少し違つた目で見えるようになった。それは恐く、厳しいだけでなく、肝心なときには力になってくれる頼もしい人だという目で…。

しかしながらトラブルが発生したのは、このときだけではなかつた。

再校ゲラ(二度目の校正刷り)は時間的なこともあり、プロジェクトメンバーと中村さんでチェックすることになったのだが、お一人だけ、できれば再校ゲラを見たいという先生がいらしたので、FAXで送り、回答を待っていた。

何日待っても返事がなく、そういうえば前々回も旅行に行かれていて、修正が間に合わなかつたので、今回も旅行に行かれていたのだとばかり思い、中村さんに原稿担当者にもそう伝えていた。ところが、実際は自宅のFAXが壊れていて、受け取れていないことに気がついたのである。

気がついてFAXを直して受信できる状態になり、この危機をなんとか乗り越えねばと思つた日は、中村さんの出張の翌日、三連休の次の日という最悪の日だった。それも編集者の関われる日程をとうに過ぎ、校了チェックの時期に入つていたのである。

私は申し訳ないと思つたのだが、個人宛の携帯メールアドレスにメールを送り平謝りに謝つて事情を説明した。それからFAXで再校ゲラの修正箇所を送り、念のため、普通の会社宛のメールアドレスにも、同じように事情を説明するメールを送つておいた。

中村さんから返事がないので、携帯に電話したのだが、繋がらない。きつと中村さんとはとても怒つていらつしやるに違いない。怒つているというよりは、今頃こんな修正を送つてきても対応しきれないという「おいかり」に違いないと思つた。

中村さんからの回答がなく不安になつた私は、この原稿作業のことを知つている友人や上司に電話して、再校ゲラの修正が今頃になつてたかを見つかつたことを正直に話した。こういう状況では、こんどこそ年内(クリスマス)

マスイブ)の刊行・発売は難しいと落胆した。

程なくして、中村さんからメールが入り、「〇〇先生の修正、大丈夫です。」と書いてあつた。そこには他にも、出版記念パーティの予算を心配するくだりがあり、中村さんの思いがけない氣遣いに恐縮した。

私は、中村さんが普段はとても厳しい方なのに、この期に及んで再校ゲラの修正箇所をたくさん出してきてくれたことに驚き、心から感謝した！

「実は、何度もダメ出しをする度に(その原稿担当者が)へこんだらどうしようと思つていたので。でも、ここで原稿にOKを出してしまつたら、その原稿担当者はこれでいいのだ(これが世に出せるレベルの原稿なのだ)と思つてしまふ。だから心を鬼にしてダメ出しを続けたのです。」と突然、告白をしてくださった。中村さんのことを皆で鬼教官だと思つていたので、私は驚きを隠せなかつた。皆に憎まれることをもはばからず、そんなことを思いながら、原稿の添削指導を続けていたのかと…。本当に感激した。

思い起こせば、野村正樹先生の取材が決まり、段取りをしていた際に、野村先生からこう注文が来た。「中村さんの予定は確認したのでしようね?中村さんが私の取材に同行しないのであれば、取材は受けられないから」ということだった。野村先生がなぜそこまで、中村さんが取材に同行するのをごだわり、中村さんを大切に思つているのか、そのときはあまり分からなかつたのだが、今改めて分かつた気がする。それくらい中村さんは、信頼されているのだ。取材先の先生方からも。

よく、あの人は、信頼できるということが、信用できる、と混同して使つている場合があるが、中村さんの場合は、信じられる人、そしていざというときには本当に頼りになる人なので、「信頼できる」を本来の意味で使うことのできる

方である。
中村さんが応援される理由はいくつかあるが、次のようなことだろう。

① 普段は寡黙で、必要なこと、重要なことしか話さないのに、いざとなつたら、しっかりとコミュニケーションが取れる

② 普段は恐く、厳しい顔・態度・行動をしているのに、いざとなつたら一言も文句を言わずに、臨機応変に対応してくれて、助けてくれる

③ 誠実なだけでなく、熱血漢である

④ 細かいところまでしっかりと把握する力があり、本当に仕事が出来るといふ感じをうける

⑤ 人から嫌われることを前提に、どうしても必要があれば厳しい態度で接する

⑥ いい作品(彼の場合は本)を作るためには決して妥協しない。徹底して細かいところにこだわる

以上である。
ちなみに、私は中村さんのような方と仕事を一緒にすることができて本当に幸せだと思つた。いろいろなことを、直接的・間接的に教えられ、また寡黙で誠実で熱血漢で、かつ仕事も実によく出来るという人の凄さを思い知つたからである。また、機会があれば是非、お仕事(本作り)をご一緒させていたいただきたいと同時に、中村美さんの今後益々の活躍をお祈りしたい。

3. 美崎栄一郎さん (スーパーサラリーマン作家)の場合

美崎栄一郎さんは現役の化粧品会社に勤務する一方、異業種交流会、セミナー、イベントを開催するなど大活躍し、ついには初めての著書「結果を出す人はノートに何を書いているのか」(Nanaブックス刊)が10万部近いベストセラーになつたスーパーサラリーマン作家である。

美崎さんと知り合つたのは、川上徹也さんの出版記念セミナー・パーティを私が主催した際に、ゲストで来ていただいたのがきっかけとなる。
美崎さんは名前も、テニスの王子様

のような美的な名前であるが、実際にもハンサムでスタイルも抜群にいい。にも関わらず、ビシツとスーツで決めることもなく、いつもラフで自然体である。

美崎さんはさりげない、でもびつくりするプレゼンをするのがうまい。私が共著で出した本の表紙をカラーコピーし、A6ノートに貼り付け、まるでその本がノートになつたかのようにして、プレゼントしてくれたことがある。

他の著者にも同様なサプライズプレゼントをしているらしいが、実際にいただと感激する。

また、宅配便のお兄さんは、いつも走つていて冷たいものが飲みたいたろうからと言つて、宅配便を届けてくれたお兄さんに、必ず缶コーヒー(アイス)を感謝の気持ちを込めて手渡しているとのこと。

さらには、部下などに仕事を頼む際に、動物クリップで書類を留めてその種類も何種類も準備して、その動物クリップを全種類集めるのを楽しみにしながら、仕事も引き受けてもらうというようにしているのだとか…。細かい気配りにも驚かされた。

そんな美崎栄一郎さんが皆に応援される秘訣とはなんだろうか?
嫉妬の対象となつてもおかしくないにもかかわらず、自然体でカッコついたりしないので、同性からも嫌われない。敵も作らない

① さりげないプレゼント・サプライズを考え出すアイデアマンである

② 細かい気配りが凄い!
相手に負担を掛けないようにするため、書評や告知宣伝を強要しない

③ 感謝の気持ちを忘れない。自著の10万部達成記念パーティに欠席した人にも、身体のことを気遣うメールを送つたりする

美容室で、「癒しのコーチング」

秋田英滯子



チャンス☆コーディネーター 秋田英滯子(あきた えみこ)

大学を卒業後、国際法律特許事務所所長弁護士秘書を務める。その後、コンサルティング会社に、知的財産権担当、社長秘書、経理、NPOの事務局担当等を務める。現在は、作家、ビジネス・縁・プロデューサー、キャリアカウンセラー<伯楽>、図解の技術研修インストラクター、チャンス☆コーディネーターとして活躍中。全国に会員がいる教育関係のNPOの事務局長として、精力的に幅広い活動も行っている。著書に「自己啓発のための知的勉強法」日本能率協会マネジメントセンター刊(共著)、小冊子に「一期一会」もう一度逢いたい人になるために、講演録に「講演と新聞・雑誌の取材依頼が殺到! それは1冊の小冊子から始まった」とある。

私には行きつけの美容室があり、オリジナルのトリートメントなどもあることからとても気に入って度々通っている。
しかしながら、足繁く通う理由はそれだけではない。ここではオーナー美容師にコーチングが受けられるからだ。
正確に言うと、そのオーナーは私にコーチングをしているつもりもないし、シャンプー・カット・トリートメント以外の料金を取っているわけではない。でも、私にとつてはそれがコーチングなのである。
楽しいとき、いいことがあつたとき、その美容師さんに報告がてら行く。先日こんなことで失敗したとか、こんなことで困つていたりかについても話に行くのである。
そんなとき、その美容師さんは、ときにはトリートメント中に、インターネットで検索して、こんな機種もありますよ!などと調べて答えてくれたりもするのが凄い。
そのオーナーでもある美容師さんは、リラックマのように癒し効果があり(笑)、私が勝手に、「クマさんコーチングを受けに来ました」と言つては、美容室に入っていく。
風水的にもこの美容室の場所がいいのかも知れないが、ここに通い始めてからとんとんいいことが起こり、発展するようになってきた。
「こないことがあつた、けれどもこんな課題もある」と話すと、コーチングを受けているときのようにいろいろ質問してくれて、それであなたはどつちですか?と来る。
「そうですね。私としては、こういうふうになりたいです」などと答えて、その日のコーチングが終わり、美容室を後にする。
また、美容室に行つては、この繰り返しである。
そういうば、バーには、カクテルを飲みに行くというよりは、お気に入りのバーテンダーとの会話を楽しくしていくのが主目的という人も多いようである。人は誰かに自分のことを話し、分かつてもらったうえで、いろいろ質問され、自分の本当の気持ち、分かつてもらったされる気がする。バーテンダーも知らず知らずのうちにコーチのような役割を果たしているのかもしれない!
美容室で、癒し系のクマさんコーチングを受けている私は、これからも何か嬉しいことが起こる度に、その美容室を訪ねることだろう。その美容師さんとの会話は私にとって定期的に摂取する、欠かせない栄養ドリンクのようなものであり、人生の楽しみの一つでもある。

『みんなで作った発表会』



～えんちようせんせいのことば～

去る12月4日、5日(地域のおじいちゃん、おばあちゃんに見ていただく日)に常滑幼稚園では生活発表会を催しました。どの学年の子どもたちも、運動会で蓄えたエネルギーに加え、友達との遊びが楽しいと感じのびやかに遊んでいました。その“友達との楽しい遊び”がさらに深まり、思いをぶつけ合ったり、楽しさを分かち合ったりする経験の場となるように生活発表会を企画しました。おうちの方々や地域の方々にご声援をいただき、発表会を無事終えることができました。発表会后4歳児は仲間とつながる心地よさを実感し、クラスの一員とし張り切っています。この一人ひとりの一生懸命さが大事と姿で示してくれている気がします。5歳児は“ありがとう”とこの発表会に至る日々の中で何度も耳にしました。あちらこちらで仲間「ありがとう」さらに「〇〇してね」「〇〇しようよ」と語りあっていました。仲間の中で高め合う姿に感動です。そんな子どもたちの心の成長が“発表会の絵”に表れているのでしょうか。



常滑幼稚園 5歳児 ふじ年長ぐみ



よしはら ゆうと

じんべいざめがでてくるところがいっぱいのしかった。じんべいざめをしまうところがないへんだった。ことばをおぼえるのたいへんだったけど、ほんばんはだいせいこうでよかった。



あかい みなみ

ちょうじゅかいはいちかちゃんがいなかったけど、いつもどおりにできてよかったよ。みんなちかちゃんのことばいえるかしんばいだったけど、がんばってできたからよかった。



ひさだ ゆうま

しゃけをうごかしたところがたのしかった。ばばやまが「じょうず」って言ってくれたからよかったとおもったよ。



てらだ みう

ときどきしたけどみんなのおかあさんたちがいっぱいみてくれたからうれしかった。せりふをおぼえていたからうれしかった。



はた かれん

はっぴょうかいはせんぶたのしかった♡たくさんおきやくさんがみてくれてうれしかったよ。せりふもっていいいいたかったよ。



さとう あつひろ

うみのぼめんのところもおきなうたのところもじゅんびやかたづけもせんぶたのしかった。あたまのなかにことばがせんぶはあったよ!



しぶき きみ

どこでもあからはいったところをわかったよ。せりふまちがえなくてよかった。ちかちゃんのせりふをいわなくちゃいけなかったいへんだったよ。



しげの きょうか

ふじさんのところはいっぱいことばがあったのしかった。いっぱいいれんしゅうしたからまちがえなくてよかったよ。ばばもまもおじいちゃんもおばあちゃんもせんいんみにきてくれたよ。



かたおか かな

しゃべるところがすごいきんちょうした。とくにさいこのところ。がんばったらできたからうれしかったよ。



つなしま ともみ

はなごちゃんとおんがかりをやっているところだよ。ちゃんとできるかなってときどきしたけどできたからよかった。はっぴょうかいはたのしかったよ。



はっとり かな

きんちょうしたけどたのしかった。ふじさんのところはいっぱいいうから、せりふをわすれそうだったけどわすれなくてよかった。「このまえみたら」のところはわすれちゃったからそこはいいかった。



かたやま ちか

はっぴょうかいはおきやくさんがいっぱいいてきんちょうした。あんまりときどきはしなかった。100でんだったよ!



こもり さくは

うたをうたったところがたのしかった。ことばをおぼえるのたいへんだったけどおぼわったからじょうずでできてよかった。



つつい みさき

ろけつとにのっているところをわかったよ。はっぴょうかいはたのしかった♡しゃべるところがたいへんだったけど、ぼっちりでよかった!



たなか みう

たいようのっているところだよ。ことばをおぼえるのやまがかりがたいへんだった。でもはっぴょうかいたのしかったよ!



いえだ ゆうき

「おおきいさかなや…」っていうところがしんばいだったけどちゃんといえてよかった。「みんなじゅんびおっけー?」っていったところがたのしかったよ!



いけだ しょう

おおだこをうごかしてるところ。きんちょうしたけど、すみはいたところはだいせいこうだった!ことばをいうところもたのしかったよ。



はしもと とうや

まくがしまるところをわかったよ。しまるまでうごいたらだめなのにみんなうごいちゃった。ゆうとくんとほくはさいごまでまてたよ。



おかだ まよ

ろけつとからおりたところだよ。すぐにせりふがあつてちょっとときどきした。ことばいってるところがたのしかったよ。



はなこ にこる

はっぴょうかいはたのしかった!ことばをおぼえていたからよかった。おつきさまでおひるねしたところがいっばんたのしかった♡



常滑幼稚園 5歳児 ゆり年長ぐみ



あいはかなこ

りゅうにのったときに、いちばんおくのおきやくさんがみえたよ。そのときがたのしかった♡さいごのおうたがおきなこえでうたえてたね♡ってしてもらったよ。セリフをいうときはドキドキしたけど、がんばったよ！うちまはだいじょうぶだったよ！！



きむらひろみ

うたをうたうところがたのしかった。「はっぴょうかいがせいこうした」っておもったよ。はじめでくるときは、はずかしくてちがうところをみていたけど、だいじょうぶになって、ちゃんとまをむいていえたよ。まくをあげるときちゃんといたし、しめるときもおほえたよ。しずかにもできたよ。



かたおか こうし

おおきなほくしゅをもらってよかった！ちようじゅかいのひは、そらちゃんのぶんもがんばったよ。ドキドキしたけど、すくなくなつて、「こころ」と「ゆうき」と「じしん」をもってほめてもらえて、よかった♡いわやくさもとりでできたよ！！



いちばら あかね

はっぴょうかいのたのしかったよ。じゅんぱんが、ばらばらになつたりしないように、りゅうの3にんで「こちだよ」っていたりして、でくるときがきんちようしたよ。きんちようしたけどたのしかったよ♡セリフ「ちがってるよ」っていいたいところもあつたけど、ゆりぐみのけきはじょうずだったよ。



わたなべ ゆうき

おかあさんたちがいっぱいいて、いつもみたいにできなくてドキドキしたよ。トンネルからでてくるところがたのしかった。くさどかつつたり、いわもつつたり、ちすもつつたりしてがんばったよ。



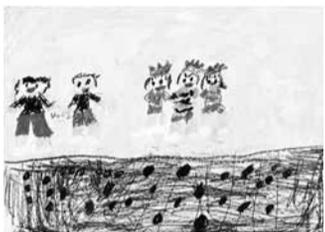
まつもと り

はっぴょうかい、ドキドキしたけどたのしかったよ。セリフをいうときはすかしかったよ。ナレーターのはめんをいちばんがんばったよ。むすかしかったけどがんばれた！うちで「たのしいげきだったね」ってしてもらったよ♡



もりした れいな

おやすみしてたから、きたとき「がんばろう」っておもった。たのしかったところは、さいごのうたをうたったところだよ♡うたうのがたのしかった！すきなうただった♡ひびちゃんやすんじやつたけど、がんばったんだよ！！



つねよし そら

はっぴょうかい、きんちようしたよ。おきやくさんがいっぱいいてよかった。「ゆりさんのけきよかったね」っていいくれた♡ライオンさんのところで、タイミングよくいえたよ！！やくをきめるときたいへんだったね。こうしくんとそらでささえあって、じぶんでもすこいなおもったよ。



つじのぞみ

たくさんのおとがたはくしゅしてくれてうれしかったよ。おきやくさんに「ありがとう」っていいたかったよ。かみしばいをよむところをがんばったよ♡みんな、りゅうのおおで、あおだらけでわらっちゃったよ♡



さかきばら なな

コウモリでとりでセリフをいったとき、ちよつときんちようしたよ。でもひとりいえてよかったよ。おやすみのこが4にんいるってことはずっとあたまのなかにあつて、さみしかったし、しんばいしてた。タンバリンやつてるときもしんばいした。おやすみのこのぶんもげんきさせた♡



とみづか ひびゆ

みんながいっぱいことばをおほえていてがんばったなあっておもった。「トラとあういはめんのときのことばが、クイズとかもあつて、いっぱいしゃべってたのしかった♡ナレーターがスラスラいえるようになっていて、すてきだったとおもう♡(じぶんのことを。)にじもステキにだせたよ。



さとう しょうま

はっぴょうかい、そうがでくるところがたのしかったよ！おきやくさんにわあっていてもらつてうれしかった。りちゃんのおえがだんだんおおきくなっていて、「よかった」っておもったよ。「みずをかけるぞ」のところをがんばったよ。



ちば かんたろう

ひびゆちゃんがやすんじだけど、がんばったことがいちばんおほえてる。「やすんじ」ってきいたとき「だいじょうぶかなあ」っておもったよ。でもだいせいこうして、うれしかったよ。コウモリさんのはめんがおもしろかったよ。



はらだ まい

さいしょはどきどきしたけど、だんだんこわくなくなつて、うまくできてよかった。おやすみしたゆうきちゃんのところを、ちよつとまちがえちゃつたけど、きししないでやつたよ。そこをがんばったよ。うちまのしごともゆうきちゃんのためにがんばろうとおもった。(やれるかなあ…っておもったけど)



とみた かいと

はっぴょうかいのたのしかったよ。おきやくさんがいるのがたのしかった♡ドキドキしたけどがんばったよ！そうさんのたのしかったよ！



うえだ なおたか

おきやくさんにみてもらえてうれしかった。ぼくはおおきくいえたし、よかったとおもう。ライオンのところや、とりのところをがんばったよ。ぼくたちのけきはじょうずだったからだいせいこうだったとおもうよ。



さいだ きょうか

きんちようしたけど、セリフをおおきくこえていって、とちゅうでとまらなかつたからよかった！みんながいっぱいとき、「みんなもとまらずにいえてよかった♡」っておもったよ。「こえがおおきかつたね」ってしてもらえて、だいせいこうだった♡



みずかみ あやね

はっぴょうかいのれんしゅうたのしかった。コウモリのセリフや、なぞなぞとナレーターをがんばったよ。いつもたのしいきもちで、ぶたいでやってたんだよ♡



かじわら れい

はっぴょうかいのたのしかったよ。トラのはめんや、おほこえでうたつたところや、さいごのうたをうたつたところが、がんばったよ。じぶんのはめんのときはドキドキしたけど「いまからいくぞ！！」っておもって、ちからをだしてがんばれた。

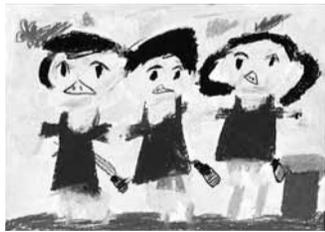


みずの せいや

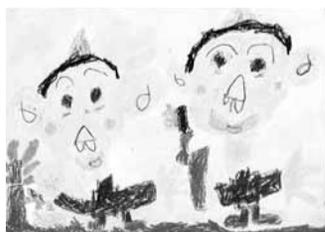
7はめんのみんなであつてるところだよ。セリフしゃべるときは「ドキドキ」、うちで「ステキだったね」ってしてもらったよ。みんなにけきをみてもらえてうれしかったよ。



常滑幼稚園 4歳児 もも年中ぐみ



なるた ゆうか



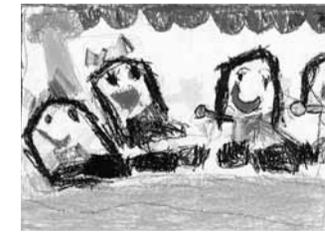
しばた じん



ふなき りく



やまぐち まこ



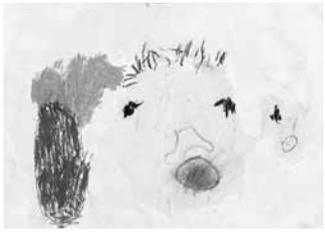
すずき ひな



わきじま みゆ



やすだ いぶき



いわした はるき



はしもと そら



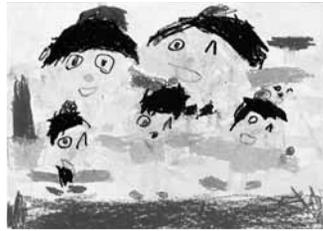
おいし りょうたろう



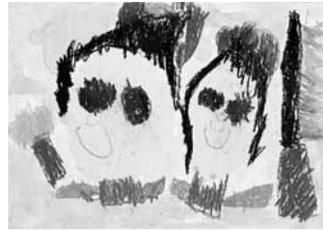
たなか なぎさ



よした ゆな



しもや さとし



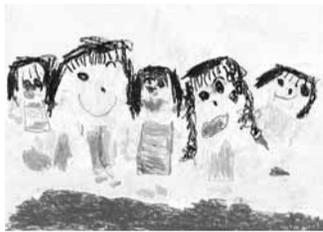
とがみ まさし



ふるかわ はな



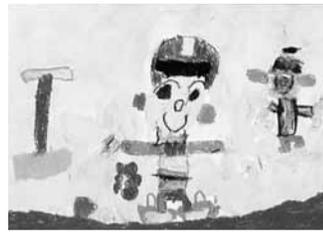
なりた こはる



なかす ちさ



かわい めぶき



かごしま いっせい



わたなべ さちか



みずの はるき



すずき まき



ひびい いちどう



常滑幼稚園 4歳児 ひまわり年中ぐみ



つのがい そういち



そのだ じゅんな



たかみ ゆのか



たつみりこ



こいえ みさき



かとう さやか



にいみ えいた



さいとう なる



さとう しゅん



かとう ちかい



まつもとななみ



むらかみ ゆずか



ふじい ふうか



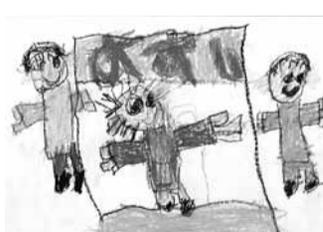
なかのりお



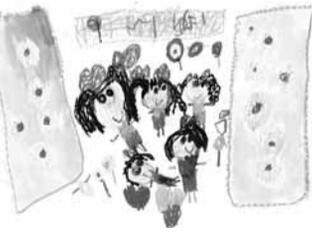
いとう しゅんま



わたなべ あみ



きた ていすけ



たけうち みゆ



いそむら しゅんすけ



ひらた はやと



おちあい みき



井田慧(どんだけい)的 パーチエスターの作り方

田村修一(芸名:井田慧)

「皆さま、初めまして。私はセドリック・パーチエスターと申します。イギリスの名門貴族・ヘアフォード伯爵家でお世話になっている井田慧でございます。今年で49歳、ただ今運命の女性を探し求めて婚活に励んでおります。」

冒頭からわけが分からない自己紹介を繰り返してしまい、失礼致しました。冒頭に登場してくれたのは、今年1年間掛けて取り組んだミュージカルコメディ「Me and My Girl」で僕が演じた「パーチエスター(通称 パーちゃん)」です。とても気さくで、お茶目な弁護士なんですよ。

一方、僕の本職は背広を着て満員電車で揉みくちゃにされながら通勤する商社マン28歳。社会人歴6年目、派手に遊び回ることもなく、週末は自己投資の名の元にビジネス系や自己啓発系セミナーに通ってばかりいた普通のサラリーマンです。昨年末の夜中、「貴方にピッタリな役があるのよ」と千葉県浦安市を拠点にミュージカル活動を5年間続けている薔薇座歌劇団の座長&主演男役の夏野薔薇氏に声を掛けられた事をきっかけに、今年の2月から稽古を始め、11月にはスポットライトを浴びて100人以上のお客様の前に舞台の上で立っていました。

ごく普通のサラリーマンだった僕が前触れも無く訪れたチャンスを受け取り、舞台の上で踊ったり、歌ったり出来るようになるまでの心の葛藤の記録を読者の皆様と一緒に振り返って参りたいと思っております。

稽古は今年の2月から始めました。始めたばかりの頃は、セリフを発することさえ恥ずかしくて、自分の出番になる度に緊張して、声が出ませんでした。それまで舞台を見たことも殆どな

く、ミュージカルは見たことさえない状態だったので、その当時の僕にとって台本に書かれてあるセリフはただの文字の羅列でした。稽古が終る度に、こんなじゃないいけないと思うものの、なかなか自分の殻を割ることが出来ず、自分を責めてばかりいました。でも、心のどこかで、この役は自分なら出来ることも知っていました。

でも、どうやって演じたいのか、その方法が分からなくて模索していました。

稽古が始まってから3カ月経過しても、一向に上達せず、自分の殻から抜け出せず、稽古が苦痛になり始めました。その頃から、なぜ毎週日曜日を稽古に費やさないといけないのだろう?と思いはじめセミナーを理由に稽古を休むことが増えてしまいました。(薔薇座の稽古は、毎週日曜日の14時から21時までが基本です)

5カ月目に帝国劇場で東宝ミュージカルが公演する同じ作品を薔薇座のメンバーと一緒に視察に行くことになりました。これが生まれて初めて観るミュージカルでした。感動しました。同じ作品を2回も観に行ってしまう程でした。目の前で繰り広げられる世界、観客を喜ばそうとするお茶目なオーケストラチーム、舞台が始まるのをワクワクしながら待ち望んでいるお客さんたち。劇場内にいるすべての人たちが

キラキラしていました。7ヶ月目、未だに自分の殻を破れずにいたものの、少しずつコミカルな事

いなかっただことも見えてくるものです。ジャクリン・カーストンという貴族の女性(薔薇座では男性が扮していました)を演じているYさんの演技がズバ抜けて面白いことに気が付きました。そして、なぜ面白いのか研究しました。元々、興味を持った事をとことん研究するのが癖なのです(笑)そして、気が付きました。パーチエスターという役がどんな役割なのか。知識として分かっていたつもりでいただけで、自分自身が演じるパーチエスターの本当の役割については理解していなかったのです。僕のパーチエスターは、

ラなら、高目の声が良いだろう。動きはクネクネで、でも憎めない愛されるキャラクターになるには爽やかさも兼ね備えて、と、どんなイメージが膨らんでいきました。不思議なもので、役をつかむと後は自然と身体が動きだしました。コミカルな動きも抵抗なく出来るようになり、表情や声、ダンスも自然と出来るようになりました。技術的に長けてはいなくても、パーチエスターとしての表情、声、ダンスなどと思えば、僕がパーチエスターとして演じてさえいけば、全ての動きが正しい事に気が付いたのです。この気付きを得た後は、必要な要素がはつきり見えるようになり、以前から興味があったものの手を付けていなかった落語や漫才、バレエなどもチェックしました。一見関係ないようですが、僕のパーチエスターには、これらの要素も含める必要がありました。自分のパーチエスターをつかんだ瞬間から、全てが変わりました。「演じる」とは自分の幅を広げることだと聞いたことがあります。自分の殻から抜け出せずに苦悶していたのは、それが自分の殻で無く、他人の殻だったからなのだと思います。全ての答えは、自分の中にある、自分の中にはまだ気付いていない自分がたくさん溶けています。昨年末、「あなたにぴったりの役があるの」と言われたとき、出来るか出来ないかを考えるのではなく、やってみたいという気持ちに正直になり未知の世界だったミュージカルの世界に挑戦してみても良かったと思っております。

お客様と演じる者の間に関係性が生まれた瞬間から舞台の上の世界は動きだします。真剣な場面で感じる真剣な眼差し、コミカルな動きをしたときに頂ける笑い声、ハプニングを自然なアドリブで切り抜けたときからお客様が一気に自分の味方になって下さったと分かる気配、もう一歩前に出ておどけたら、ウケそうだと分かるお客様からの期待。お客様と演じる者の無言の対話と信頼関係で舞台は命の輝きを放ち出すことを知り、これこそが「井田慧版パーチエスター」が生まれた最大の秘訣でした。

を出来るようになりました。でも、今から考えるとまだ動きが硬かったですね。身体全体を使って表現することを知らない段階だったので(泣)この頃から自分の殻を破ることより、パーチエスターという自分の役について考え出しました。暇さえあれば、考えていたと思います。疑問を持ち出したことをきっかけに、他のメンバーの演技をしっかりと見るようになりました。それまでは、自分の殻を破ろう、破ろうと考えていたので、視点が自分ばかり向いてばかりいて、周りを見られていませんでした。視野が広がると、今まで見えて

思いっきりクネクネしようと思っただけです。俗にいうオカマキャラですね。薔薇座は宝塚歌劇団のテイストをベースに持っているため、最初は宝塚のパーチエスターを真似しようと思っただけで、どうもつかめず苦労していました。パーチエスターの劇中の役割を自分なりに突きつめていき、僕のパーチエスターはオカマキャラかなー!?と行きついたのです。それから、簡単でした。なりきれば良いのです。それまでは、良い声を出そうとばかりしていました。道化役のオカマキャラ

僕は今回の作品にも参加することが決まっています。まだ、どんな役か詳しくは知りませんが、自分の中に既に溶けている新しい自分を探しながら、役を作り上げていくつもりです。次回作でも多くの皆様はハッピーになれる舞台をお届けしたいと思っています。最後にあのパーチエスターが生まれた一番大切な秘訣をシェアさせていただきます。舞台は演じ手だけでは出来ません。お客様が居て初めて輝き出します。

著者紹介
田村修一(芸名:井田慧【どんだけい】)
1981年、群馬県生まれ。東京理科大学理学部卒業後、「商社マン」として、欧米、韓国、南アフリカなどを舞台にビジネスを繰り返す傍ら、「自称ミュージカルスター」として、薔薇座歌劇団が公演する舞台の上で歌って踊り、「オフ会幹事」として、異業種交流会「ライフハッカーズクラブ(LHC)」を舞台に「何か生まれそうな場所作り」を研究。チャンス☆コーディネーター秋田英子氏を初め、多くの方からチャンスを受け、舞台のレポーターを日々広げている。本の制作プロジェクトのメンバーとして、NPO法人知的生産の技術研究会編『知の現場』(東洋経済新報社刊)にも参加し、小銅弾さん他著名人5名の取材・インタビューを担当した。



ヒーロー現わる!日本初のプロレス・マスク・ミュージアム

▼ザ・グレート・サスケのマスクがずらり多くのバリエーションがあり驚いてしまう



▶ 四代目タイガーマスクのマスクは開魂ショップにて購入可能



シリーズ 職人魂

1980年代(昭和56)一大会場を巻き起こし、憧れのヒーローだった初代タイガーマスク。あの当時、8時のゴールデンタイムで『ワールド・プロレスリング』を楽しまれていたのは、はるか昔のようである。そんな初代タイガーマスク(復活)、4代目タイガーマスクを専属で製作しているのは、はじめ、多くの選手を手がけているのが、三重県津市に工房を構える『プロレス・ミュージアム』館長・中村之洋、その人である。彼は、幼い頃から気管支ぜんそくの戦いに苦しみ、入退院を繰り返す。そんな彼がTV中継の中で華麗に飛び回る強くて、たくましく、そして空中殺法で多くのファンを虜にしていたメキシコの英雄・千の顔を持つ男、ミル・マスカラスに魅了され、衝撃が走ったという。病弱だった彼が幼いながらも、あのマスカラスの分身である仮面を持って、気持ちの高ぶりを維持しながら体を鍛えられ病気を克服できるのではなかろうか?と思っ

“マスクは芸術品・工芸品”

たという。小さい頃からミル・マスカラスに憧れ、高校時に独学でマスク製作に没頭した日々を送り、27歳の時あるきっかけで出会って初めて職人としてデビューを飾る。これにより現在日本を代表するマスク職人となる。なんと言っても彼の素晴らしいマスクは、ミリ単位で作る精密さ・丁寧さに尽きる。とてもハンドメイドとは思えない程の出来だ。脱帽である。また数あるマスク職人の中でも珍しく自分をマネキン代わりにして被りながら模様を貼り製作するのが特徴だ。こうすることで生地が張りやシワがたかなく仕上がると同時に、目のくぼみ、鼻の高さなど立体感が顔にフィット感を生み出す。そしてマスクを二重貼りで内側をメッシュ生地にし、汗で肌にくっつくのを防ぐ工夫もされている。被り心地を追求した職人ならではの発想で現在最先端を進む。

2003年1月に多くのプロレスファンにマスクの素晴らしさを共感してもらった思いがOPENした『プロレス・ミュージアム』。工房には約600点程のマスクが並び(現在改装中)。主にタイガーマスクをはじめ、ミル・マスカラス、前岩手県議員のグレート・サスケ、獣神サンダー・ライガー、メキシカンレスラー、その他数々のレスラーの試合で使用したマスクが資料と共に所狭しと、並んでいる。また実際に使用するタイガーマスクの製作も行っている為、製作過程を見ることが出来る。ファンでなくとも楽しめる。中村氏もあつ



▲ 真剣なまなざしで鏡をみながらカットした模様を貼りつけている

左右対称になる様に微妙なズレをチェック▶ 神経を使う所である



© NEW JAPAN PRO-WRESTLING CO.,LTD.

りとした話しやすい人柄のため、多方面から話を聞きに来る人も多い。こんな気さくな中村氏に少しインタビューしてみた。

Q マスク職人としての楽しみは何ですか?

A マスクファン達の反響が自分に伝わってくる。自分が製作したマスクの話が聞けることが出来るというところが。まあ何と云っても、職人自体が称えられること。マスクには製作者のタグというものが付いていて(中村氏の場合YN製『Y』製の『は』)って、マスク自体ではなく職人の名前が言われること。

Q マスクの魅力は何ですか?

A 選手を最大限に輝かせて引き立てる。それでいて取れば工芸性・芸術性の高いものになるというところが。それです。

Q 好きなマスクマンは?

A ミル・マスカラス、タイガーマスク

Q 一番の宝物のマスクは何ですか?

A ミル・マスカラスの85年頃、週刊『プロレス』のスタジオ撮影時使用の半分分のカラーリングのものです。ピンナップに載ったその現物が手に入り大事にしています。

Q マスク作りは当り、気を使う点は?

A そうだね、(1)個々に頭の形・大きさが違うので、選手毎に頭にフィットした被り心地

(2)マスクに興味・憧れをもってもらえる

格好良さ (3)ハンドメイドとは思えないほどの丁寧さ。この3点を

もって製作します。

Q 同じマスク職人として尊敬する人はいますか?

A アレハンドロ・ロドリゲス(フエラ製)です。彼は、あのメキシコの英雄、ミル・マスカラスを20歳代で製作担当しているし、斬新なアイデアを持っているからね。

Q もし今の仕事でなかったら、どんな仕事をしてると思いますか?

A 体が弱かったら、体を鍛える仕事か、憧れの人のそばで、それに携わる仕事に携わっていると思います。

Q 今後の野望は?

A 今で終わりでなく、これから初代・4代目タイガーマスクのマスクを製作していきたい。好きなマスク作りをずっと続けたい。まあお客さんに満足してもらえたらいい。

るマスクを提供したい。自分の、こういうマスクを作りたい。いかにいかにいかに、要望に最大限応え、いつまでも見ていて飽きない、見ていかにいかにいかにマスクを作りたい。



(右) 週刊ゴング・スタジオ撮影時のミル・マスカラス (左) 初代タイガーマスクの専属になって初めて試合でかぶった時のモデル

職人としても凄いが、マスクにかける愛情は誰よりも強く、そしてマスクを愛する瞳の奥に幼少頃自分がヒーローになりたい、強くなりたいと描いていた彼の計り知れない思いを今回の取材で感じることが出来る。もっともっと上を目指して、今以上にこの道を極めてほしいものである。(取材・文/赤井 孝充)

【プロフィール】
中村之洋 (なかむら ゆきひろ)
マスククリエイター
一九六六年 三重県松阪市生まれ
二〇〇一〜 四代目タイガーマスク専属職人となる
二〇〇三〜 復活初代タイガーマスクも専属に。その他数々のマスクを手がける。
●プロレス・ミュージアム HP: <http://jp-nwmm.com/>
●新日本プロレス開魂ショップ HP: <http://shop.jpw.co.jp/ps/shop/php/index.php>

色紙プレゼント!!



※ちたろまんについてのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(ハガキにチケットを貼り、住所・氏名をお書きください。)
※抽選で3名様にサイン色紙をプレゼントします。
※なお、ご来店可能な方のみに限らせていただきます。(1月末まで)

色紙プレゼント
応募チケット

